

# 今、自衛隊喫緊の課題は 募集

澄田 豊 陸自68

はじめに

防衛問題について国会やマスコミ等で取り上げられているのは、「装備」「敵基地攻撃などにみられる防衛戦略」そして、それらを裏付ける「法律」が主体であるように思います。即ち、我が国を如何に防衛するかという表向きの議論です。

AI化や無人操縦化が進められていると聞きますが、最終的にはこれらの装備を運用するのは人であり、今外国の紛争の写真を見ても小銃を持った第一線の兵士はいつの時も欠かすことができないと思います。いくつかのテレビで自衛官出身の国会議員が「自衛隊は常に定員不足である」と言っておられました。

新しい組織ができると、どこかの組織が削られているようです。

令和5年11月11日に、今はなき出雲駐屯地対戦車隊の元所属の現職・

退職隊員の会同が開かれましたが、ある現職隊員の広報官の「とにかく

人がいません。どんな小さな情報でもお願いします」という悲痛な挨拶が耳に残っています。

令和5年4月に地元米子駐屯地で行われた自衛官候補生の入隊者は17名でした。今までは、30名から40名だったように思います。

## 募集環境について

私は、自衛隊OBの一員として、何かできることはないのか、今行っていること以外にないのだろうかとか日々考えています。

そこで、第一線の広報官のご苦労の背景を見てみたいと思います。

最初に、何と言っても少子化と各企業などの求人倍率の高さです。しかし、民間企業は外国人労働者の雇用ができますが、自衛官の条件は「日本国籍を有すること」です。

次に、世論、マスコミ報道、自衛隊に關係する組織についてです。

かつて「税金ドロボウ」と言われた時代がありました。各種世論調査でも、なくなりました。各種世論調査でも、憲法に自衛隊を明記することなど肯定的な意見が多くなったようです。

反面、自衛隊は合憲である。したがって、憲法改正は必要ないという

政党もあります。

また、海外派遣時の港で隊員やそれを見送る家族の前で「憲法違反の自衛隊の海外派遣反対」を掲げるデモの記事がありました。

ある駐屯地が新設されようとしている時に、基地ができれば水源が汚染されるような報道、続いて駐屯地ができる、「駐屯地の隊員とその家族を市の人口に含めない」とする新聞報道もありました。

更には「自衛官の人権を守る会」についてです。

いかにも自衛官の人権を守る団体のように見えますが、その組織即ち自衛隊は自衛官の人権を疎かにする組織であるかのように受け取られかねません。

あるパートが、自衛隊の装備車両の展示を企画したところ、反対にあつて中止されたそうです。その装備も災害派遣時に活躍している給水車や炊飯車であつてもです。

外国の軍事パレードは報道されなくても、自衛隊の記念行事は報道されないと聞きます。

自衛官の処遇について  
ずいぶん昔の話で、昭和30年代の

ことだと記憶していますが、私の給与が同級生の高校の先生の給与に劣らなかつたように記憶しています。

ところが、最近では同年代の平均以下だと聞いたことがあり、これを何とか平均まで引き上げようと努力されているようです。

ある参議院議員が、「いざという時に第一線で活動する自衛官の給与は今の倍にすべきだ」と言っておられました。募集時、広報官の苦労は並大抵ではないような気がします。

## おわりに

こうした環境の中で苦労されている広報官の皆様、何かお手伝いできないものでしょうか。

数年前からお子さんのおられる近所のご家庭に、広報官に持つてきてもらった自衛官の写真入りカレンダーを配布しています。また、自衛隊の行事などもお知らせするようにしています。

直ちに目に見えるような成果はないかもしれませんが、これからも少しでもお手伝いをさせていただこうと思います。

偕行社の会員の方から何か良い方法をご教授いただければ幸いです。